

岩手教区報

第325号
 立教183年1月1日
 天理教岩手教務支庁
 盛岡市馬場町3番40号
 TEL 019-622-7962
 FAX 019-623-9597

立教183年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。旧年中は教区活動のご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございました。

今年の3月で震災から9年目を迎えますが、被災された2か所の教会が復興することとなり、心から嬉しく思います。一方、現在教区管内は101か所の教会がありますが、この度の本部へのお預けが進みますと、100か所を切ることに成りそうです。名称の理は末代とお教えいただき、親神様は末代かけて教会をお許し下されたのですが、私どものつとめが足りず、申し訳ない限りです。

日本には、200年以上続く会社が約3千社あるそうですが、中国には9社しかなく、韓国には1か所もないとのこと。何百年も続く老舗を分析すると、4つの共通点があるそうです。一つ目は創業者の理念を大事にしている。代が変わっても常に創業の考えを命に吹き込む。二つ目は社長から社員まで目標に向かつて情熱を共有している。三つ目は謙虚であること。四つ目は誠実であること。

天理教の教会と、世の中の会社とは性格を異にするものであります。そこには相通するものもあるように思います。会社を教会に置き換えると、一つ、



人だすけの心で 岩手教区長 加藤 昌弘

教会設立を思い立った初代の信念を忘れない。信仰の元一日を常に忘れず、代が変わっても心に刻んで通る。二つ、会長がようぼく、信者の方々と共に心を定め、その達成に向かって勇んで通る。三つ、思い上がり、うぬぼれを戒めて、常に感謝と慎みの心を持つ。「百人の上に立てば百人の足許にいる心千人の上に立てば千人の足許にいる心」と教えていただくように、立場上その任にあったとしても、教会の者は常に低い心で通る。四つ、誠実の心を持つ。人のため、人をたすける心を持つこと。ということろでしょうか。

どの項目ももちろん大切ではありますが、信仰を元につながる私たちにあって、四つ目の「人をたすける心」を忘れてしまえば、教会の意味がなくなってしまう。 「たすけのもとだて」とお教えいただくおつとめをしっかりとつとめ、おさづけを取り次ぎ、教会としての本来の在り方を歩んでいきたいものです。

本年も、教区管内のお互いが励まし合いたすけ合って、「ONE TEAM」で勤めさせて頂きたいと思えます。教区、支部活動の上に一層のお力添えを賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



「ねは子の年」

立教183年(令和2年)の本年は干支では第一番目の「子」の年である。「子」は「一」から始まり「了」で終わる。「一」と「了」の二つが一つとなり「子」となる。つまり干支ではひと回りして、再び「一」に戻って新たに出発する革新の年とも言える。更に「子」は「根」であり、「親」であり「元」でもある。今年は根元に重きを置く年になるだろう。又、お互いの信心を深めるため、自分たちの信仰の元一日をたすね、親や先人たちの道すがらを顧み、今、自分達が結構にお連れ通り頂いている親心を悟り、成人に励みたい。「子」は又「種」にも通ずる故、子の

年は種まきに勇む年でもある。大木に育つ杉やヒノキの種は小さい。しかし種に伏せ込まれている理が大きいので大木となる。ガンで倒れる人でも、人を救ける種を蒔けばわが身も救けて頂く実が成ってくる。人の心は「種」だから、日々常に思う心、使う心の理が「現象」となる時、身上、事情として知らして頂く。結構と思えば結構となり、案ずれば案じの理がまわり、不足すれば切る理となる。心の種は何処で蒔くかといえ「口」で蒔くと言う。世情でも吐き出した唾は飲まれないと言うが、一度言った事は取り消しが出来ぬ。種は蒔いた人が刈り取る。悪い種の根は根こそぎ抜き取らねば何代後も生えてくる。この世で種ほど不思議なものはないと言われる。種は元、人間の元、万物の根元だ。子供の頃は元が分からないが、成人すると共に分かってくる。この種を蒔けばどんな芽が出、枝となり、花が咲き、どんな実がなるか分かるようになる。



「種」の理が分かれば難儀不自由の種は蒔かぬようになる。成人した姿である世界たすけの元なるならば、ご守護の物種を蒔く田地である。「ちば一条」に「親孝心」の真実を伏せ込む今年は、子の年の良き旬である。

新任教会長紹介



岩手久慈分教会
 (城山大・九戸支部)
 長野 昭代
 昭和24年10月11日生
 前任者長野道男氏の出直しに伴い、4代会長としてお許しを戴いた(12月26日)。就任奉告祭は3月1日。

行事予定

- 8日 教区小史編集委員会(10時)
- 16日 主事会(9時)
- 〃 役員会議(10時)
- 〃 予算地方委員会(役員会議後)
- 18日 青年会例会(18時)
- 2月1日 少年会例会(12時)

【1月分】



少年会

「第46回少年会総会」開催さる



祭儀式をつとめる盛岡支部の少年会員が緊張感漂う中、親神様へ一年間のお礼とさらなる成人を誓った。

続けて「おつとめ」では、支部少年会活動として取り組んできた稽古の成果を、親神様にご覧いただくことができた。式典では、少年会長様(真柱様)よりご告辞を賜り、来年のこともおちばがえりに

本年も、皆様方のお力添えを賜り、総会を開催させて頂けた事、厚く御礼申し上げます。

当日は、少年会員、引率する育成会員が勇んで参集し、10時に開会。今年の

向けて、普段から少年会の「ちかい」にあるように、教えを学び、ひのきしんに励み、互いにたすけあうことの大切さをお示しいただいた。また加藤教区育成会長様からは、おつとめを日々つとめていくことの大切さをお話し頂いた。

式典後、昼食をはさんで、午後はアトラクションで楽しみ、2時30分の閉会となった。

なお、参加者は、少年会員76人(うち中学生24人)、育成会員60人であった。



青年会

「ユースワークショップ」

【2月8日～9日】

教区青年会では、左記の要項で、「ユースワークショップ」を開催します。

ふだんの生活で、教えを学ぶ機会が少ないように思われるお互い。若い教友が共に集い、この道の教えの角目をふりかえる機会を設けたいと思います。

なお、1日目は懇親会を計画しました。有意義な場といたしたく、1人でも多くのご参加をお願いいたします。

記

- 日時 2月8日(土) 18時受付
- 9日(日) 11時解散
- 場所 教務支庁
- 対象 青年会員及びOB
(50歳くらいまで)
- 申込み 委員長 相澤元まで
(090-7663-7581)



学生担当委員会

高校生の集い「まなびば」報告

教区学生担当委員会では11月30日と12月1日に亘り、国立岩手山青少年交流の家を会場に、平成31年度高校生の集い「まなびば」を開催、高校生3人スタッフ4人の計7人が参加した。

テーマ「親神様のご守護」の下、3つのグループタイムや朝夕のおつとめ、講話などを通して、身の内をはじめ、周囲にお与え頂いている皆さんの御守護に気づくプログラムを進めた。特に、時間的な巡り合わせや人との出会いなど、ややもすると当たり前と思ってしまうしやすいことにも、親神様の深い親心が込められており、深いご守護の中に、お互い



「第37回学生会総会」報告

が生きているということを考える機会となった。そして、今回のまなびばで、親神様の御守護を知るだけでなく、人に伝えることも大切な役割であることを確認できた。

教区学生会(高野慎司委員長)は、去る11月30日、国立岩手山青少年交流の家を会場に、第37回教区学生会総会を開催、学生3人、担当者(育成者含)5人が参加した。

式典では、よろづよ八首を総立ちで勤めた後、本部学生担当委員長のご祝辞を代読、続いて教区長先生よりご祝辞を頂いた。そして教区学生担当委員長祝辞、教区学生会委員長のメッセージを代読、希望の花を斉唱して、総会は終了。

今回参加下さった学生さんたちは、それぞれに意欲を持って参加して下さい、皆さん真剣に祝辞やメッセージに耳を傾け、今後の信仰姿勢に大きな収穫を得たように思う。



献血推進委員会

「献血ひのきしん」実施報告

年末年始は一年を通じて血液が最も不足する時期です。今年も県赤十字血液センターの恒例行事「クリスマス献血キャンペーン2019」に参加させて頂きました。

12月1日(日)、イオンモール盛岡南を会場に、4つのボランティア団体が参加し、キャンペーン開始のセレモニーの後、買い物客にプラカードで献血呼びかけひのきしんを行いました。

私達「岩手教区献血たすけあいの会」では、二戸・九戸・盛岡支部から参加の9人が午前10時から午後4時まで熱心にひのきしんに励ませて頂きました。

当日の献血状況は、受付58人中、200mlが8人、400ml41人と、例年より良好な結果とのことでした。

2月1日(土)には「バレンタイン献血キャンペーン」が実施されますので、多数のご協力をお願いいたします。